

岩国藩領藤谷村庄屋片山家の

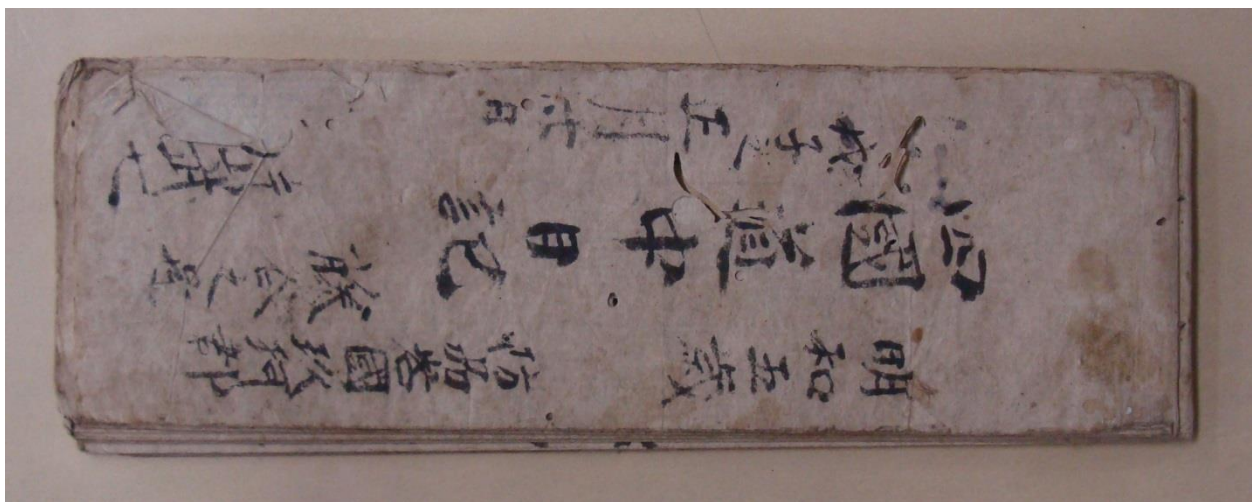
四国巡礼

—明和五年「四国道中日記」—



「山陰山陽四国九州絵図」 毛利家文庫58絵図198

目次	
目次	1
解説	2
四国八十八ヶ所霊場と遍路道概略図	3
「四国道中日記」片山武七の四国巡礼ルート	4
凡例	5
四国道中日記	6



「四国道中日記」表紙

解説

「四国道中日記」は、山口県文書館蔵・片山家文書（旧美和町）に残る四国八十八ヶ所巡りの旅日記である（No.48）。

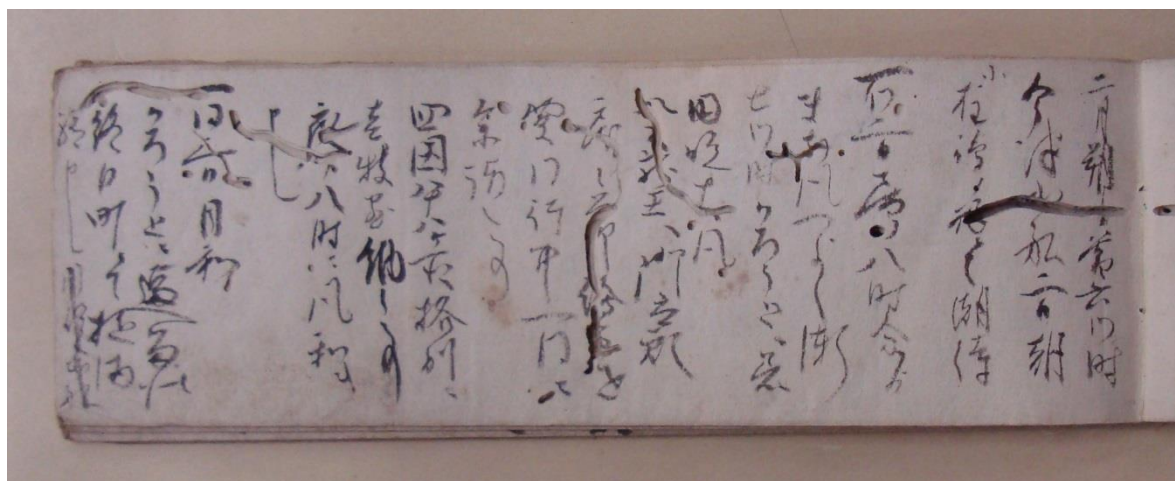
片山家は、江戸時代、岩国藩領玖珂郡藤谷村（現岩国市）に居を構え、同村や黒沢村等の庄屋を務めた。「四国道中日記」は、明和五年（一七六八）二月一日より、片山武七が四国八十八ヶ所巡りの旅に出た際の様子を書き留めた日記である。三月九日まで書き継がれている。当館には、江戸時代、防長人が記した四国八十八ヶ所巡りの旅日記がいくつも残るが、その中で、現在確認できている限り、「四国道中日記」は最も古いものである。

日記は二月一日に周防国今津を出発する所から始まる。海路を進み、四日に伊予国三津浜に上陸後、後掲表に示したように時計回りの行程で参拝している。伊予、讃岐、阿波、土佐と進み、三月九日、土佐国の国分寺（二九番札所）に参詣したところで日記は終わっている。最終的に旅をどのように終えたのかは不明である。

本テキストは、実践講座卒業生を中心とする古文書解説自主グループ「けやきの会」が平成27年度に解説した。会のメンバーは左記のとおり。

久保田有香・森重由祁子・三好能子・上田蕃穂・山本節子・井本澄江・高田美智子・

（サポート）山崎一郎・山本明史・吉積久年（山口県文書館）



「四国道中日記」本文

四国八十八ヶ所霊場と遍路道概略図



徳島県	
札所番号	寺院名
1	霊山寺
2	極楽寺
3	金泉寺
4	大日寺
5	地藏寺
6	安楽寺
7	十楽寺
8	熊谷寺
9	法輪寺
10	切幡寺
11	藤井寺
12	焼山寺
13	大日寺
14	常楽寺
15	国分寺
16	観音寺
17	井戸寺
18	恩山寺
19	立江寺
20	鶴林寺
21	太龍寺
22	平等寺
23	薬王寺

高知県	
札所番号	寺院名
24	最御崎寺
25	津照寺
26	金剛頂寺
27	神峯寺
28	大日寺
29	国分寺
30	善楽寺
31	竹林寺
32	禅師峰寺
33	雪蹊寺
34	種間寺
35	清瀧寺
36	青龍寺
37	岩本寺
38	金剛福寺
39	延光寺

愛媛県	
札所番号	寺院名
40	観自在寺
41	龍光寺
42	仏木寺
43	明石寺
44	大宝寺
45	岩屋寺
46	浄瑠璃寺
47	八坂寺
48	西林寺
49	浄土寺
50	繁多寺
51	石手寺
52	太山寺
53	円明寺
54	延命寺
55	南光坊
56	泰山寺
57	栄福寺
58	仙遊寺
59	国分寺
60	横峰寺
61	香園寺
62	宝寿寺
63	吉祥寺
64	前神寺
65	三角寺

香川県	
札所番号	寺院名
66	雲辺寺
67	大興寺
68	神恵院
69	観音寺
70	本山寺
71	弥谷寺
72	曼荼羅寺
73	出釈迦寺
74	甲山寺
75	善通寺
76	金倉寺
77	道隆寺
78	郷照寺
79	天皇寺
80	国分寺
81	白峯寺
82	根香寺
83	一宮寺
84	屋島寺
85	八栗寺
86	志度寺
87	長尾寺
88	大窪寺

※本図は、愛媛県生涯学習センター『四国遍路のあゆみ』（平成13年刊）所収の「四国八十八ヶ所霊場概略図」をもとに一部加工した。

愛媛県歴史文化博物館編『四国遍路ぐるり今昔』（2014年）4頁を転載引用

明和5年(1768)「四国道中日記」片山武七の四国巡礼ルート

月日	国名	参 拝 所 (数字は札所番号)	宿泊地
2月1日	周防	今津出船	小柱島潮待
2月2日	安芸	八大龍王	鹿老渡
2月3日			鹿老渡
2月4日	伊予	鹿老渡出船・三津浜着	三津浜
2月5日		52太山寺・53円明寺	北条町
2月6日		54延命寺・56南光坊	今治城下
2月7日		56泰山寺・八幡宮(57榮福寺)・58仙遊寺・59国分寺	桜井村
2月8日		生木地藏尊	大頭町
2月9日		60横峰寺・61香園寺・62宝寿寺・63吉祥寺	西和泉村
2月10日		64前神寺	土居村
2月11日		65三角寺・奥ノ院	奥ノ院
2月12日	阿波	66雲返寺	粟井村
2月13日	讃岐	67大興寺・琴弾八幡(68神恵寺)・69観音寺	流岡村
2月14日		70本山寺・71弥谷寺・73出釈迦寺・72曼荼羅寺・74甲山寺・75善通寺	善通寺
2月15日		金毘羅・76金倉寺・77道隆寺	丸亀城下
2月16日		78郷照寺・79天皇寺	高松西ノ庄村
2月17日		80国分寺・81白峯寺・82根香寺	飯田村
2月18日		仏生山・84屋島寺	段ノ浦
2月19日		85八栗寺・86志度寺・87長尾寺	長尾
2月20日		88大窪寺	大内郡入野山村
2月21日	阿波	白鳥神社	引田
2月22日		3金泉寺・2極楽寺・1霊山寺・大谷村洞理院	阿州川端村
2月23日		4大日寺・5地藏寺・6安楽寺・7十楽寺・8熊谷寺・9法輪寺	法輪寺門前
2月24日		10切幡寺・11藤井寺	坂中
2月25日		12焼山寺・禅乗寺	阿川村禅乗寺
2月26日		13大日寺・14常楽寺・15国分寺・16観音寺・17井戸寺	徳島佐古町
2月27日		18恩山寺・19立江寺	立江村
2月28日		20鶴林寺	水村
2月29日		21太龍寺	阿瀬比村
3月1日		22平等寺	阿州木岐村
3月2日		23薬王寺	浅川町
3月3日	土佐	—	安喰町
3月4日		—	佐喜浜
3月5日		24最御崎寺・25津照寺	津照寺門前
3月6日		26金剛頂寺	羽根浦
3月7日		27神峯寺	伊尾木町
3月8日		28大日寺	松本村
3月9日		29国分寺	八幡村

けやきの会作成

凡例

- 一、当史料は、平成27年度古文書解読自主グループ「けやきの会」が解読したものである。
- 一、漢字は原則として常用漢字を使用した。
- 一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。
- 一、適宜、読点および並列点を付した。
- 一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。
- 一、説明として加えた傍注は()で示した。
- 一、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。
- 一、難読部分は、参考のため該当箇所の写真を添付した。



「新增日本道中行程記大全」(安倍家文書 1456)より四国(上)・中国(下)部分

四国道中日記

①

(表紙)

(一七六八年)
明和五歳
防州岩国玖珂郡
藤谷之邑
片山武七
四国道中日記
戊子之正月卅日

②

道中諸事覚え書き

土州五社明神より六り先、宿善七、
(墓) 廿年程りさる七月十四日死去ノ女はか所有之、黒皮ノはつ、
(黒川) 讃州田土津船問屋わたや伝兵衛、
(多度津) 丸亀問屋河内屋仁兵衛、
阿州徳島浜屋吉兵衛、
同国焼山寺奥之院三面之大黒御願受候事、

③

大谷村洞理院
出世大黒天

阿州板野郡一番霊山寺より五十丁下り、
(灌頂) 大谷村洞理院出世大黒天、 六灌丁

御守り

土州之内、飛石はね石之間ニ廿一度廻り之僧有之、御守被差出

三角寺奥の院金光山ニて土砂頂戴之事、其外御守出ル、

御笹山ニて盗除牛馬御守出ル、

納札

④

(天竺)

(和霊)

一伊予大州御城下和領大明神塚腰彦之右衛門様より御初尾参ル、

一伊予松山城下ニてせうふ式本
(皇浦)

黒机・桂・栗や

同所ニて

一手紙式百枚

中村氏

伊予三坂埜ニて大師御願買之事

⑤

納札

一散銭 一 栗や氏

一同 壺 桂氏

一同 壺 黒机

一同 壺 百太

一同 壺 百房

一同 壺 儀

一同 壺 新

一同 壺 武

⑥

一 **大**州・中山大興寺へ分レ道、内ノ子と言町より、

一土州之内とろ川有、用心、

一同国之内壺里計船渡有之、乗候事、

⑦ 四十六分
一銀百五拾二匁式歩

三 一同七匁壹歩五厘

式 一同四匁六歩

三 一同七匁式歩

壹 一同壹匁五歩五厘

一 一同壹匁六歩

一 一同式匁壹歩五厘

一 一同百七十七 四五也

一 一同 上宗

今津船

船今津万や

長蔵

(嗣子)
か子 新三郎

兵蔵

乗相

洞泉寺御内

浮舟長老
(ふしゆ)

知量小僧十七才

御供初平

乗組 三人

相模
伊シ
甚右衛門 かへル

杉

甚・喜・新

ゼ市

平

蔵・内

上宗

今津出船
小柱島
鹿老渡

八大龍王
繪馬

鹿老渡出船
高浜瀬戸
三津浜

太山寺
円明寺
北条町

大江町

天水壺
井手清右衛門
延命寺
南光坊
(南光坊)
今治城下
風呂

泰山寺
仙遊寺
辻店

⑨ 二月朔日、暮六ツ時今津出船、二日朝、小柱島ノ岸ニテ潮待

一同二日、昼ノ八時分よりま西風つよく、漸七ツ時(鹿老渡)かろうとへ着、同

晚大風、八大龍王へ御太願、戻候節絵馬を買、同行中一同二参詣之
事、四国八十八ヶ所 格別二老枚宛納候事、夜ノ八時二風和キ申候、

一同三日、日和、かろうと二逗留仕、終日町ニテ遊、酒給申候、

⑩

宿、津和野や市郎右衛門所

(※この部分 写真参照)
□伊勢歌ニ而也

一 四日晴天、同日明六ツかろうと出船、八ツ時高浜瀬戸を越、七ツ下

刻三ツヶ浜へ着船いたし、下松屋九兵衛へ上り申候、

一 五日晴天、三ツを立、太山寺へ寄、九ツ二納、堀江村平左衛門殿方

ニテ昼仕廻、円明寺へ納ル、同晩ほうしやう町泊り、宿油屋利左衛

門殿、

一同六日朝、小風晴天、大江町今張や平七、昼仕廻いたし申候、門合

二大酒や岩国

⑪

やと言有、居宅八つ棟造り、棟三天水つほ二ツ有之、井手清右衛門、

前八大庄や、只今ハ無役、同日七ツ、あかたノ延命寺へ札打、又別

宮大明神江札打、同晩今張城下泊り、宿かしや久五郎、同晩風呂御

寄進有之、かしや、

一同七日晴天、四ツ泰山寺、同下刻八幡宮、同九ツ佐靈山御寺ニテ

昼仕廻、辻店有之、一せん五文也、

⑫



国分寺
桜井村
風呂
郷土芥川市
右衛門

同日泰山寺より御出家江出逢、同日七ツ国分寺江納、同日晚桜井泊り、宿こんや、風呂之御馳走有、

一桜井村二芥川市右衛門と言郷土有、只今極領ニ相成故、平百姓ニ相成、名を改候而福蔵と言、昔侍之時分けんへいつよく者、平百姓ニ成故、其村者不及言、近郷之もの迄ニクミ立、余中ニても物語すルモノナク、召仕之下人も遠境よりヤトイ、扱々ツラキ暮之由、下人男七人・女三人居申候由、其村ノモノ、若物語スト一村之会合をハスシ申由也、

庭前二松・タイタイノ木有之処ニ、我本共ニかれ候而氣遣居候内、右之仕合ニ相成由、兼而告鳥有之由也、

(13)

楠木村
丹原
遍照寺門前
接待茶
生木地藏
大頭町
横峰寺
香園寺
宝寿寺
吉祥寺
西和泉村庄
屋黒川半蔵

一同八日朝、四ツ迄曇天、九ツより雨天、七ツより日和ニ成ル、桜井より楠木村迄越、朝飯仕廻、たん原^(丹原)ニて、遍照寺門前ニてセツタイ茶ヲタべ、雨用意いたし候、同日、生木地藏尊江参詣、同晚八ツ時大戸町へ着、泊り、宿小左衛門、^(大頭)
一同九日朝、里小雨、四ツ横みねへ納ル、九ツニ宿へ戻り、小左衛門所ニて昼仕廻、八ツ香遠寺^(香園寺)、七ツ宝寿寺、同刻吉祥寺、同晚泊り、

(14)

西城御領西和泉村御庄屋黒川半蔵、宿同所利兵衛殿へ、

覚書

前神寺
萩生村
土居村大百姓

八日夜大戸宿ニて、ゆめニ甚家焼と見ル、ねて後二宿之戸をタ、キ亭主出テ見ルニ何之事も無之、其後朝迄ゆめを見ル、一同十日晴天、朝前神寺へ納ル、昼仕廻、萩尾村多ひすや庄兵衛、同晚泊り、西城領土居村大百姓^(善人也)、父七郎兵衛、子儀兵衛、七才

風呂

中曾根村今村小左衛門
孫兵衛

龍王石
正光庵
三角寺

大坂・江戸
打ちこわし

雲辺寺

讃岐国栗井村

大興寺
観音寺

流岡村

本山寺
落合地藏堂
弥谷寺
出釈迦寺
曼荼羅寺
甲山寺

(15)

此夜、段々御馳走風呂も立申候、
石鉄^(石越)願をモライ申候、
下記写真参照



一同十一日晴天、中曾根村今村小左衛門、同姓孫兵衛大庄屋役、庭二龍王石と言名石有、屋敷ノ上、同村山辺三今村氏持庵有之、正光庵と言、年中諸人目今村氏仕入、此庵ニて昼仕廻、同日八ツ三角寺へ納、坂ヲ越、七ツニ奥之院へ納、同日晚泊り、奥之院、米六十文、
覚書

此所商人亀や喜七物語ニ、

(16)

正月十日ヨリ十八日迄、大坂ニて五十式軒ツブシ申候、正月十八日ヨリ廿日迄ニ江戸ニて六百軒ツブシ、右両所大乱之由、委ハ難筆紙尽略之、

一同十二日晴天、山内ニ雪有之、八ツニ雲辺寺納、上下大坂ヲ越、麓之讃州分あわい村市左衛門ニ泊ル、
(栗井)

一同十三日晴天、七ツ時、一刻小雨後日和、同朝小松尾寺納、同日八ツ琴引八幡觀音寺へ納ル、同町江戸屋十郎右衛門殿へ立寄、御馳走有之、同晚町はつれ、

(17)

流レ岡村甚蔵殿江泊り申候、此人之父、五年已前廻国ニ被出越由咄有之、同晚風吹申候、雨ふり、

一同十四日曇天、雪しくれ候、朝六ツ本松寺^(本山寺)へ納ル、五ツ落合地藏堂へ行、九ツ弥谷寺、八ツしゆつしやか寺、同刻まんだら寺、同刻甲

善通寺

金毘羅參詣

山寺、七ツ善通寺、同晩善通寺ノ境内覺^(虫遣)坊庵ニ泊り、
一同十五日晴天、昼九ツ金毘羅參

金倉寺
道隆寺
丸亀城下

詣仕、ねはん経読誦ヲ聞、一年ニ一度不明之明明、境内を拝見仕
候、四ツ金倉寺、八ツ^(道隆寺)とう隆寺、同晩丸亀城下横町川端すみ屋権
次郎ニ泊り申候

覚書

同晩、横町木綿屋久次郎殿へ権平ヲ同心ニて見舞申候、酒ヲ被
遣、大酒仕候、同十六日朝、福島や平左衛門殿、町ノ年寄

(19)

役也、彼方へ見舞、同朝、詫間屋八藏殿へ見舞申候、福島屋よ
り大まん^(天鰻頭)しゅう一箱為御持、平左衛門殿直ニ旅宿へ御出、詫間
屋より、いか物^(蔵物)壺重箱、取交菓子一重箱、ぬか積一盆、見祢・
八藏殿御兩人御出、御手代ニ為御持、木綿屋よりぬか積壺すみ
為御持、久次郎殿御出、西国行之時ノ下人権八も御出、右西国

同行衆

(20)

御揃也、此方より馳走、湯とうふ・酒代とも二銀三匁式歩分馳
走いたし、互ニ昔語とも申承候、詫間屋より同行中通り懸り立
寄候様ニと案内有之、一同ニ参ル、青粉之餅一盆宛出、酒出ル、
夫より右四人之衆、宿主すみや権次郎へ五人御城下之町はすれ
迄凡半り程行、川有之、船渡場迄

(21)

見立送りニ被参、川端ニて暇乙仕候

郷照寺
天皇寺

一同十六日晴天、夜雨ふり早速天氣、九ツ道場寺、八ツしゅとく天^(郷照寺)
^(崇徳)天皇寺

高松藩領西
庄村
風呂

王、同晩高松御領之内西ノ庄村百姓孫四郎ニ泊り申候、風呂之御馳
走有之、

国分寺
遍路坂
白峯寺
根香寺
飯田村

一同十七日晴天、五ツ国分寺、遍路坂ヲ越、九ツ白みね山、八ツねゴ
口寺、同晩高松香川郡飯田村泊り、
^(白峯寺)
^(根香寺)

(22)
宿金六、

仏生山開帳

涅槃の木像
屋島寺

一同十八日晴天、四ツ仏生山へ参ル、御開帳いたし候、同所門前之町
角や兵七方ニて昼仕廻、御開帳錢百文、備中六人組、此方六人組
十式人、ねはんの木ぞう有之、八ツ八島寺^(屋島寺)へ納、西坂中ニ不喰なし
の木式本有、根ニ地藏尊有之也、其上ニ弘法大師御作石ニ^(梵字)ほん字

(23)

六字名号等数々有之、八島寺三十三年ニ一度御開帳有之、数々之尊
像拝見ス、八島段之浦^(屋島・樽ノ浦)豆戦之時、サメザやノ御太刀・弓等奉納有之、
其外絵図・巻物之ケイズ書等数々難筆紙尽略之、同晩段ノ浦泊り、
宿藤七、風呂ノ御馳走有之也、
^(豆)

(24)

一同十九日晴天、朝五ツ八栗寺へ納、御開帳、色々之名筆・御宝物拝
見ス、三十三年ニ志度、同四ツ志度寺へ納ル、同八ツ長尾寺へ納、
同日初なる神、長尾寺ノ麓ニて聞申候、同晩同所町はつれ百姓家ニ
泊り申候、
^(鳴神)

大窪寺

一同廿日曇天、八ツ時より小雨、夜中計りふり、九ツ時大久保寺へ納
寺より壱り程下り、大内郡入野山村、宿喜内ニ泊り申候、
^(大窪寺)

(25)

風呂之御馳走有、

風呂
白鳥神社
引田

一同廿一日晴天、九ツ白鳥大神江参、同所昼仕廻、同晩ひけた泊り
^(引田)

宿紀伊国や源兵衛、此者善人也、

一同廿二日晴天、朝大坂ヲコシ、四ツ金泉寺、同刻極楽寺、同八ツ
靈山寺、同七ツ大谷村洞理院、出世大黒天請ル、同晩阿州川端村
政右衛門二泊り、

一同廿三日晴天、朝四番、九ツ五番、此御寺にて御僧へ申上ル趣、
私儀別紙願状之趣ニ付、此度はたし返路ニ参候所ニ、此間足ノ裏

皮薄ク相成故、いたみ難儀仕候ニ付、道中計わらし御免被遣候様
ニ被仰断被下候様ニと申候へハ、使ノ外人より申上れハ悪敷候間
其方直ニ御断申上候へと被仰候ニ付、大師様へ右之旨趣

申上、自今ハ札納仕廻迄ハこますを給申間敷候、御札壹枚宛格別
納可申候、一日二百返大師之法号唱可申候ハ、御立願仕、寺門前
よりわらしはき申候、

安楽寺
十楽寺
熊谷寺
法輪寺
六番
七番
八番
九番

同晩門前ノ忠右衛門二泊、

一同廿四日雨天、九ツより晴天

四ツ時切幡寺、九ツ藤井寺、同晩坂中柳の水ノ庵泊、
一同廿五日天気、晩岡雪也、九ツ焼山寺、同晩阿州村禪宗禪乗寺泊り、
一同廿六日晴天、四ツ一之宮、九ツ常楽寺、八ツ国分寺、同刻観音寺、

切幡寺
藤井寺
柳の水の庵
焼山寺
大目寺
常楽寺
国分寺
観音寺

井戸寺

七ツ井戸寺、

徳島佐古町

一同晩徳島さこ町柳原わたや喜兵衛・わたや利兵衛、

恩山寺
立江寺
鶴林寺
那賀川

一同廿七日晴天、九ツ恩山寺、七ツ立江地蔵寺、同晩立江村和喜助泊り、
一同廿八日曇天、九ツくわくりん寺、同晩阿州長川船渡ヲ越、舟ちん
二もん、水村幸八泊り、

太龍寺

一同廿九日晴天、九ツ太龍寺、同晩あせひ村

平等寺

三月朔日晴天、四ツ平等寺、同所門前茶や山城や理右衛門所にて平
兵衛ニ□□申候、銀六匁老歩五厘、□□平存にて平兵衛ニかし、同晩

薬王寺

阿州木岐村組頭五兵衛二泊ル、
一同二日晴天、五ツ薬王寺、八坂坂中八浜浜中ヲ越、同晩朝川町喜四
郎二泊ル、

宋喰町
往来手形

一同三日晴天、此旦三行、
同晩しぐくい町ニ徳右衛門二泊ル、
覚書、しぐくい町こんや貞右衛門方にて往来調かへもらい申候、
同所こんや貞右衛門所にて丸亀問屋次右衛門として壺通、

甲浦御番所
飛石はね石
佐喜浜
井筒屋

一同四日晴天、□六ツ、かんの浦御番所にて切手改有之、日次六通ニ
シテ被下候、五ツ野根村にて切手裏書ヲトリ、夫より飛石はね石
ごろく石之難所ヲ凌、同晩崎の浜へ泊り、井筒屋利平次世倅辻右
衛門、

32

風呂

富貴仁也、大船三そう、鰯あみ、大百姓也、蔵三ヶ所、出店モアリ、同晩風呂御馳走、

最御崎寺
津照寺

一同五日曇天、八ツ土州東寺、七ツ津寺、同晩津寺之前高知屋文兵衛泊り、(報謝)ホウシヤ木錢六文宛、此所能三十分也、同晩八ツ時より大風雨仕、同日くじら執諸道具ヲ見ル、

捕鯨道具

一同六日、昼九ツより日和、四ツ時旅宿ヲ立、

金剛頂寺

九ツ西寺へ納、同晩はね浦泊り、よますや忠二郎、ホウシヤ、

羽根浦
よますや忠二郎

大船持福人也、

覚書

難破船

旅宿ニて聞、二月十三日七ツ時、はね浦ニて大坂船壱そう破船、去十一月朔日、はね浦より三里西之タノウラ町、(田野浦町)大船一

そう破船仕由、

一津寺宝前ニ木札ニ書、掛札ニシテ有、乳之沢山ニ成ル藁大麦

のもやしにかんぞうヲ加、せんし用てヨシ、右之通りニシテ

有之也、津寺上人之御自筆、

同晩羽根より壱り西ナアリト云町ニケンクワ有之、刀合申由、(余半利)

双方共ニ死ハ不仕候、

一同七日晴天

神峯寺

九ツかみのみね寺、川式ツ、船渡(八文 五文)、同晩伊尾木町泊、宿大

工久七、木錢六もん、

一同八日晴天、八ツ大日寺、同晩松本村泊、佐野や小西彦太郎、

木錢六文、

大日寺

国分寺

一同九日晴天、九ツ国分寺、同晩八幡村泊り、宿善六、木錢六もん、

(終)